

4 令和6年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を行う。 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習指導を行う。 ・「聞き取る力」「読み取る力」「書く力」「要約する力」「説明する力」を高める学習指導を行う。 ②多様な入学生徒に対応する教育課程を編成する。	①授業改善 ・主体的、対話的な学習を通して、求められる力の育成を目指し、学習の深まりと拡がりにつながる授業を追求する。 ②教育課程・学習支援 ・生徒の状況や進路希望に応じた幅広い学びを可能とする教育課程に基づいて、主体的・対話的な学習の実現を目指す。 ・新課程への移行を受け、一人一台端末の導入に対応した学習活動の指導をする。 ・専門教科福祉の科目を核として福祉の心を育む学習活動を展開する。	①不断の授業改善 ・授業改善プロジェクトチームを中心にICT活用と効果的なグループ学習を柱とした研究授業を計画し、授業改善に生かす。 ②教育課程・学習支援 ・チャレンジ講座や夏期講習の充実を図り、生徒の積極的な参加を促す。 ・実用英語技能検定、日本漢字能力検定等の一層の積極的な受験を促す。 ・通級指導を含めた教育課程の評価・見直しを行う。 ・一人一台端末を活用した授業実践を研究する。 ・ICT活用型の学習教材の積極的な活用を促す。	①授業改善 ・プロジェクトチームによる授業改善の実施 ・生徒による授業評価 ・管理職による授業観察の評価 ②参加状況調査等 ・チャレンジ講座や夏期講習等の参加状況調査 ・各種検定試験の受験者数の調査 ・授業における端末の使用状況と生徒の取組の調査 ・通級指導を含めた教育課程の教育課程の対応状況	①授業改善 ・プロジェクトチームによる研究授業を10月～11月に実施。 ②参加状況調査等 ・「国語」「数学」「英語」の夏期講習に延べ40名参加した。 ・通級指導の準備会議を実施し、支援が必要な生徒への対応を検討した。	①職員の掲示板等を活用して、情報共有を行った。より活発な情報共有と授業改善を目ざし、発展させながら継続していきたい。 ②積極的に参加する生徒が増えてきたので、継続していきたい。	・入学前にタブレット端末の購入をするように指示があったが、使用した授業が1科目しかなかった。タブレット端末の購入は授業内容を考えて指示した方が良いと考える。 ・夏期講習の参加者が増えたことは高く評価できる。 ・通級指導に向けて、課題を検討し、改善する必要がある。	①授業改善プロジェクトチームにより、組織的な授業改善を行うことができた。今後は、タブレット端末の使用状況を高めていくために工夫が必要である。 ②通級指導に関して、今年度はアセスメントを実施するのみだった。来年度、指導が必要となった場合は、課題を見つけていきたい。	①校内研修等とおして、全職員にタブレット端末の効果的な使用方法を周知する。 ②通級指導をとおして出た課題は、記録に残し、共有する。
2	生徒指導・支援	①ホームルーム・生徒会・部活動と学校行事の一層の活性化を図る。 ②規範意識、自己管理能力、責任感の醸成を図る。 ③いのちを大切にする教育、教育相談体制の充実を図る。	①部活動や生徒会行事を活性化し、生徒の自主的・主体的な活動を推進する。 ②ルール・マナーを遵守する意識と自己を管理する能力の向上、責任感の醸成を促す指導を徹底する。 ③SC・SSWと連携しながら、支援が必要な生徒について、状況把握と解決に向けた取組を迅速に行う。	①部活動や生徒会を中心とした委員会活動や学校行事への取組において、生徒の自主性を高め、生徒が主体的に企画・運営できるように支援する。 ②法律や校内ルール、交通マナーなど社会的なマナーを遵守することの重要性を、始業式・終業式等あらゆる機会を通して具体的に指導する。 ③学級担任やSC・SSWとの連携をより密にし、個々の生徒の課題を早期に把握し、解決に向けた適切な取組を行う。	①部活動や行事にかかる生徒対象のアンケートによる生徒の充実感の状況 ②法律や校内ルール・社会的マナーに反する言動はなかったか。 ③支援が必要な生徒の課題を早期に把握し、適切に対応することができたか（教育相談の件数）。	①体育祭、文化祭の生徒アンケートの「積極的に協力した」と「まあまあ協力した」という回答が90%を超えた。 ②概ね良好であったが、SNSや交通に係るルールに反する行動は散見され、指導を行った。 ③生徒及び保護者からSC63件、SSW41件（1月末）の相談を通して、生徒の課題を早期に把握し、適切な対応をおこなうことができた。	①引き続き積極的に参加しやすい環境を整備していく。 ②SNSの適切な使い方について、集会等あらゆる機会を通じて指導するとともに、校内ルール・社会的マナーの遵守をより一層促す。 ③全定同一のSC・SSWのため、相談結果や今後の対応について時間が取れず、SC・SSWとの情報交換が十分ではなかった。データの共有化等をより進めていきたい。	・どの行事も生徒が主体的に行うことができて、素晴らしいものとなった。 ・SNS使用に関する指導は単発ではなく、継続した指導をするようにした方が良い。 ・SC・SSWの配置は全日制と定時制が併置されていることを踏まえて、増員することが望ましい。	①コロナ禍で中断してしまった行事も本格的に再開し、生徒主体の活動を実施することができた。 ②SNSの使い方の指導に関して、不十分な部分があった。 ③SCとSSWの予定が過多になってしまい、一人ひとりに合わせた指導ができなかった。	①今後は、さらに生徒主体の活動になるように支援していく。 ②今後は外部講座だけでなく、LHR等を活用して、啓発活動を行う。 ③学校支援課へSC・SSWの増員を要望する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの進路意識を明確にさせ、希望進路の実現に向けた積極的な働きかけを行う。 ②特に上級学校進学率の向上を目指し、目標設定から対策の徹底を図る。	①上級学校や外部機関と連携し、生徒の進路意識の向上を図るとともに、進路実現に向けて支援を行う。 ②各種選抜方式に応じた受験準備を生徒に促すとともに、進路を見据えた発展的な学習支援を行う。	①上級学校見学や職業体験への積極的な参加を促すとともに、学習・進路ナビのワークシートを活用した探究活動の定着を図る。専門学校と連携し、介護職員初任者研修を実施する。 ②進学ガイダンスの充実を図るとともに、外部テストの受験機会を増やし、生徒の発展的な応用力を養う。	①上級学校見学や職業体験の参加者数の状況調査及び介護職員初任者研修に参加した生徒の人数、資格取得状況 ②模擬試験等外部テストの受験者数、大学入学共通テスト受験者の増加状況調査	①各種専門学校や市内の保育園と協力し、3名の生徒が職業体験に参加した。仕事のまなび場プログラムに6名の生徒が参加した。 ②外部業者による模擬試験を延べ約90名が受験した。大学共通テスト出願者数15名。	①インターンシップや就業体験の機会をとらえ、生徒へ積極的な参加を促す。 ②進路テスト以外にも不定期の外部テストへの参加人数を増やし、生徒の発展的な応用力を養えるよう努める。一般受験者数の一層の増加を図る。	・インターンシップ等のさらなる推進を行って欲しい。 ・大学受験で一定の成果を残す生徒が増えてきたことは評価できる。	①インターンシップ等の体験活動とおして、福祉系の進路を選択する生徒が増えた。 ②大学受験で一定の成果を残すことができた。	①周知方法を工夫することで参加者を増やしていく。 ②大学受験の結果を生徒へフィードバックし、意欲のある生徒の啓発を行う。
4	地域等との協働	①インクルーシブの観点から「福祉の心」の涵養を図る。 ②地域学習を通じて地域への理解と地域貢献に対する意識を高める。	①「福祉の心」を育むために必要な場면을積極的に設定する。 ②地域との交流の機会を増やし、地域貢献への理解を深める。	①教科をはじめとした教育活動全体をとおして、多様性を理解し、助け合いが必要な場面を設定する。 ②「総合的な探究の時間」や「社会福祉基礎」をはじめとした科目をとおして、地域との交流を行い、地域のさまざまな行事への参加を図る。	①「福祉の心」を育むために必要な場面を設定した数 ②地域の行事への参加数及び参加者数	①社会福祉基礎の履修者だけでなく、各行事において車椅子等の来校者に対して補助を行うなどを実施した。 ②地域のスポーツ行事のボランティアや清掃等に30名を超える生徒が参加した。	①特定の生徒だけでなく、多くの生徒が「福祉の心」を育むための場面を増やしていくことが課題である。 ②学校をとおして申し込みをしていない生徒についての数を把握できていないので、単位申請等をとおして実数を把握したい。	・今後も「福祉の心」を育てる場面を増やしていくことを期待している。 ・一部の生徒だけではなく、すべての生徒が関わる機会をつくって欲しい。	①多くの生徒に「福祉の心」を育てる場面を増やしていく必要がある。 ②多くの生徒がボランティアに参加していることは評価できる。	①LHRや総合的な探究の時間だけでなく、各教科の学習の中で「福祉の心」を育てる場面を増やしていく。 ②ボランティア数の把握のため、アンケート等を実施する。
5	学校管理 学校運営	①清掃活動の充実、学校美化を推進する。 ②SDGs等の観点から防災体制、防災教育を強化する。	①清掃活動を推進し、継続して校内美化と学習環境の整備を図る。 ②防災体制を整え、諸訓練を通して緊急時の対応力育成を目指す。	①清掃活動を通した校内美化の意識づけと、用具の充実、整備を行う。 ②備蓄品の管理・整備を行い、状況に応じた諸訓練を行う。	①清掃活動や環境整備の状況 ②備蓄品の所在、数量・消費期限の把握と諸訓練の実施状況	①清掃用具の充実と清掃の徹底に努めた。また、教室内の破損物品調査を行い修繕に向けて進めた。 ②備蓄品の管理・整備を行っている。AED、DIG、各種防災訓練では、生徒への意識づけと職員間の連携を図りながら実施した。	①引き続き環境整備を行いながら、校内美化に対する意識付けを行っていく。 ②継続して消費期限に留意した備蓄品管理の徹底と各種訓練を実施し、諸課題を検証しながら防災の意識づけをしていくことが課題である。	・清掃が行き届いた環境であることに誇りを感じている。	①清掃を含め校内美化を維持することができた。 ②備蓄品の管理・整備を行い、AED、DIG、各種防災訓練を実施することができた。	①今後も継続して校内美化に努める。 ②今後も継続して防災教育を推進する。